# 小島さんと二葉山を歩いて

地球号会員　戸野直之

肌寒い冬の１日ではあったが、二葉山に登ってきた。今回は、小島さんの日課となっている散歩に同行させていただいた。自転車で小島画廊（小島さんのお宅）を訪れると、いつもの散歩スタイル（冬季用）に身を固めた小島さんが、いつもの優しい“小島スマイル”で階上から降りてこられた。さっそく、六条麦茶の段ボール箱を自作の背負い子に固定し、その中に黒色ゴミ袋と火箸をセットして（理由は後でわかります）出発準備は完了。小島さんのママチャリに続いて、ゆっくりとしたペースで二葉山を目指す。

二葉山の山歩きは今回で２度目である。広島生まれの広島育ちで三十路も半ばにさしかかろうという自分が、こんなに身近にある二葉山を初めて訪れたのが昨年の秋。地球号の高校生講座で高校生たちと一緒に登ったのが、記念すべき第１回目だ。これまでヨーロッパアルプスやネパールヒマラヤをトレッキングしてきた経験はあるが、二葉山は長年？自身の“歩きたい山リスト”に名前すら登場することはなかった近くて遠い山。「灯台もと暗し」とはまさにこのことであろう。

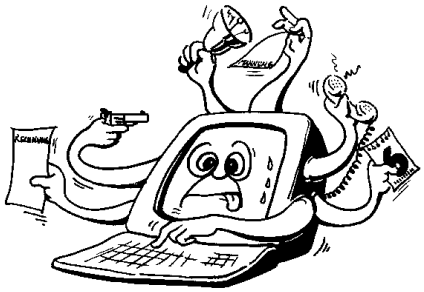
私事ではあるが、昨年の秋から高校生講座をきっかけに宇宙船地球号の会の活動に関わらせてもらっていて、その活動を通して二葉山が貴重な自然の宝庫であること、その一部を破壊する小学校の建設計画があること、小学校建設計画に反対する会（二葉山を守る会）があって小島さんがその代表をされていたこと、などを知った。そんな小島さんが、毎日の散歩で撮影した写真を元に二葉山の写真集「二葉山原生林」を出された。最初、写真だけ眺めただけで、不届きにも「少しピントと解像度が甘いな」（35㎜ のコンパクトカメラなので当たり前）などと思っていたが、後半にある文章のページや写真解説のページと写真とを読み比べていくにつれ、当初そう思っていた自分が恥ずかしくなった。小島さんの二葉山に対する思いに満ちあふれたこの写真集は、ピントや解像度などが云々という小賢しい議論よりも、もっと大切なことを教えてくれていたのである。目で見ると同時に、心で見る写真集だと感じた。いけない、いけない。目に見えたものしか信じない、品質・性能第一という技術屋時代の悪い癖が出ていた。

小学校建設予定地をかすめながら西尾根に取り付く。無機質なコンクリート壁とアスファルト道が、ぬくもりのある木々とふかふかの落ち葉道に代わる。途端に街の雑踏が静まって元気な鳥の声が聞こえてきた。小島さんに続いて森の小道を歩くと、ほどなくして二葉山の中で小島さんがいちばん好きな場所である「神の庭」に到着。「神の庭」入り口で急に立ち止まられた小島さんを思わず追い越してしまったが、入り口で柏手を打つのが日課なのだそうだ。不届きな輩はあわてて引き返し、柏手を打った。神の庭に入ってその木々について話される小島さんの表情は、まさに“小島スマイル”。アベマキやヤマザクラ、ナナメノキ、シリブカガシなど、少年のように瞳を輝かせながら楽しそうに色々な話を話して下さる。こちらまで楽しくなってくるぐらいだ。

滑らかなナナメノキの樹皮に耳を当て、小島さんの言う「木の声」を聞く。しかし、悲しいかな修行不足の自分には、どんなに耳をこらしたつもりでも「ドクッ、ドクッ」という自身の心臓の音しか聞こえてこない。そのことを小島さんに話すと、「まあ、自分の心臓の音が聞こえるだけでもいいじゃないですか、街中ではそういった経験も少ないでしょう」と、いつもの“小島スマイル”で答えて下さった。それもそうだと納得する。

ここで“小島スマイル”について話しておきたい。これは、私が小島さんを見て勝手に命名したもので、決してどこかにある登録商標のようなものではないことを断っておく。小島さんは人と話される時は、ほとんどいつも優しい笑顔である。加えて、自分のような青二才に対しても、決して饒舌ではないが、やわらかい丁寧な言葉で応対して下さるのだ。浄土宗の仏教用語？に「和顔愛語」という四字熟語がある。入試などには間違っても出ないと思われるが（岩波書店の広辞苑には記載がなかった）、その意味は文字通り「和やかな顔をして、愛に満ちた言葉を語る」である。頭ではわかっているが、いざ実行してみようと思うと大変に困難であることを痛感する。なるほど、小島さんのようにようにすればいいのか、と少し勇気が出た。

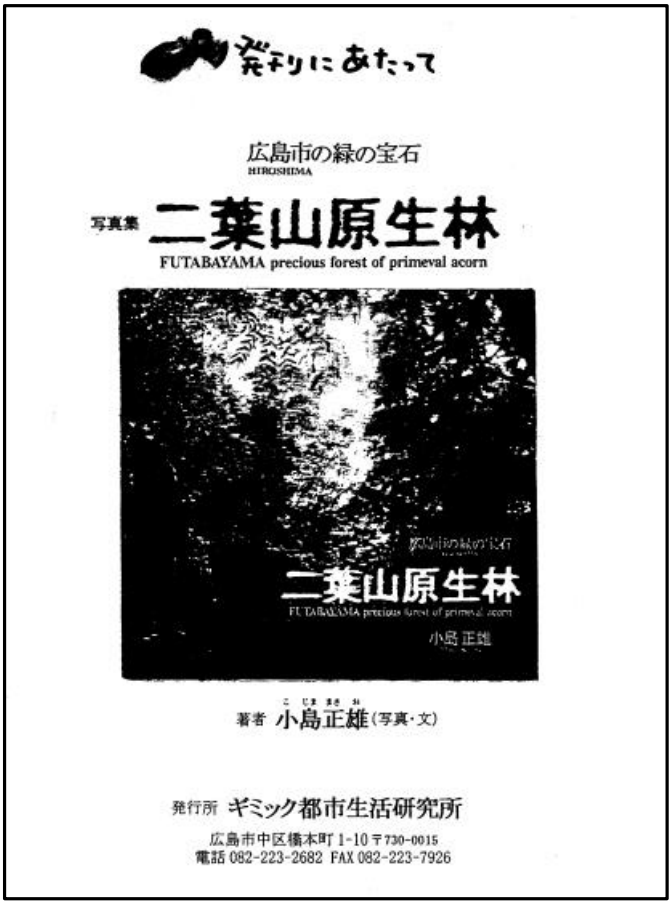
二葉山の山頂に近づいた所で、小島さんに「ここも気に入っている場所です」と教えていただいた。二葉山の主（大きなシリブカガシ）のあるエリアだ。小島さんは、さっそく背負い子に固定した六条麦茶の段ボールの中から火箸と黒色ゴミ袋を取り出し、周辺に散乱しているゴミを拾い始めた。慌てて自分も追随する。ゴミを拾う間の小島さんの表情にいつもの“小島スマイル”はなく、こわばった



厳しい表情をされている。自分もゴミを拾いながら、無性に腹が立った。それにしても、日々「和顔愛語」を実践し、毎日の散歩でゴミを拾い、下草刈りや森の手入れをされている小島さんの後ろ姿を見ていて、とてもありがたい人に感じるのは、決して私だけではないだろう。これが大乗仏教の言う菩薩（自利・他利を求める修行者）なのではないかと思ったぐらいだ。

「まあなんですが、全然わからんのですよ。」
前日の地球号の例会で、自宅にあるパソコンのことに対し小島さんが言われた言葉である。自分には多少なりともパソコンの心得があるので、せめてものお返しに小島さんのお宅にあるパソコンのセッティングを引き受けさせてもらった。いくら世代が離れているとはいえ、色々と貴重な話をしていただいて（もちろん話だけではないが）、こちらから何もお返しできないのは心苦しかったので、少しは気分が軽くなった。はからずも、パソコンをつつきながら、中学校・高校の国語の先生をされていた小島さんと教育の話になった。二葉山の話をされる時もそうであったが、子どもたちの話になると、小島さんの瞳は一段と輝く。私も現在、小学校の教師を目指している身の上である。
「もしも先生になれたら、学校に来て今日のように子どもたちに色々と話して下さいね」
とお願いすると、いつもの“小島スマイル”で快く承諾して下さった。
しかし、いつの話になることやら・・・。
それはともかく、二葉山と小島さんに素敵な１日をプレゼントしてもらったことは事実だ。

小島さんの出されているすてきな本です



# アウトドアのすすめ　その９

## 冬を楽しもう～冬ならではのお楽しみ

川口 辰之進

寒い寒い冬がやってきます。最近は昔に比べると、ずいぶんと暖かくなり…これも地球温暖化の影響か？一大事だ！冬の楽しみが減ってしまうじゃないか？と不安に思うこの頃です。

さて、今回は寒い冬を楽しく過ごすアウトドアについて書いてみます。

### その１　雪山登山

なんといっても、山は冬に限ります。普段見慣れている山が銀色に輝き、頭がキンキンするくらい気温が低い状況での登山は最高です。

重たい荷物を持って（３０ｋｇくらいかな）を担いで、はーはー、ぜーぜー息を切らせて、大粒の汗をかきながら、胸まである雪を掻き分けていく。周囲が氷点下で風かヒューヒュー吹いているというのに、体は暑くてシャツ１枚になって、さらさらの雪と大格闘を繰り広げる…山頂がすぐそこまで見えているのに、２００m進むのに３０分もかかったこともあります。たいていは２０分おきに先頭が交代しながら、雪を掘り進む！のですが、このとんでもない状況を超えると、そこにはすばらしい世界が待っています。

冬の山の空気は、1年の中でもっとも清んでいる時期で、たとえば鳥取県の大山から四国の石鎚山が見えることがあります。私も一度だけお目にかかれましたが、それはもう筆舌に尽くし難いほどの景色でした。一面の雲の絨毯の中に、ぽっかりと山の頂が浮かんで見える…冬山の空の色はただの青色ではありません、むしろ紫色がかった、本当の空の色です。

ぜひ、雪山登山をお勧めします。

### その２　スキー

やはり、ウインタースポーツといえばスキーを欠かすことはできないでしょう。私も学生時代に覚えてから現在に至るまで楽しんでいます。

ただスキー場で滑るだけではぜんぜん面白くありません、人が多くでうんざりするだけです。そこで私たちはスキー場に行くときには、簡易テント（ツェルト）とお茶のセットをザックに入れて行きます。人が多くなってリフトの待ち時間が長くなってきたら、スキー場の景色の良いところでティータイムとしゃれ込みます。

スキー場は備北にある道後山が最高です。人も少なく2000円で泊れる広島県最古のログハウスもあり、テントをはっても、ソリでスキー場を滑ったって、誰も怒ったりはしません。よくありますよね、ゲレンデを靴で歩くな！とか、ソリは専用コースで滑れ！とか、きてる人はみんなスキーヤーだと思っている。ちなみに道後山スキー場にはゲートはありません。スキー場の中をザックを担いで登山ルートに使ったこともあるくらいです。

私のもっているスキーは登山用のスキーセットで、登山靴をスキーに取り付けるものです。板には、ヤギの皮でできた滑り止めをつけることができ、登山のときにはクロカンのように歩きながら山を登ることができるのです。当然ゲレンデでも、それを使っているので、リフトが混んできたら、さっと、皮の滑り止めをつけて、ゲレンデを登ってしまいます。そしてゲレンデじゃない山の潅木の中に突入して滑っていきます。滑れないところは、板を外してミニ登山です。ゲレンデの人のざわめきを聞きながら、もしリフトがなければこんなに人もいないのになあ…とちょっぴり思ってしまいます。

ちなみにスノーボードはあんまり面白くありません。私も持っていますが、スキーに比べると、フレキシビリティが少ないというか、あんまり奥の深いものじゃないかな？と思います。だから、ボーダーはジャンプ台を飛んだり、